

インド北東地域と日本：インパール作戦の戦跡をたずねて

著者	坂井 華奈子, 村山 真弓
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	IDEニュース
巻	3
ページ	16-16
発行年	2019-03
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00050744

インド北東地域と日本

——インパール作戦の戦跡をたずねて——



写真①

バングラデシュの北側から東側にかけて、ミャンマーなど5つの国と国境を接するインドの北東地域。第二次世界大戦中、「インパール作戦」によりそこで多くの日本人が命を落としたことをご存じだろうか。作戦名にもなったインパールのある現マニプル州だけでなく、現ナガランド州のコヒマも戦場となった。現地を訪ねると想像以上に標高が高く、十分な食糧もないまま道なき道を進軍した兵士たちの辛苦が偲ばれた（写真①）。

日本軍の補給基地があったヴィスウェマ（Viswema）村でお年寄りたちに話を聞いた（写真②）。最初村にやって来た日本軍は身なりも清潔で礼儀正しく、その様子を見て勝つと思い協力したが、敗走してきた時にはボロボロの悲惨な様子で気の毒に思ったこと、日本の補給基地だったため英軍に爆弾を落とされ村人も苦しんだこと、25年前には日本のテレビ制作チームの訪問があり、それを記念して大きな石碑を立てたが、雨

風に曝されて消えてしまった碑文の文言を取り戻したいと思っていることなど、戦後の日本との交流についても語ってくれた。

ナガランド州にはクリスチャンが多いが、主に日本側の生存者と遺族の寄付によって建設された大聖堂にはコヒマで唯一の日本語の碑文がある。祖国のために命を落とした日・英・印すべての人々と平和を想って建てられたその美しい大聖堂を訪れると、現地の人々が集い、讃美歌を歌って祈りを捧げていた。

地滑りの跡の多く残る山道を揺られてコヒマからインパールへ向かう途中、ガイドに言われて車を降りると、日本軍が爆破した橋の名残が草むらに埋もれていた。現地の人々は今でも当時の日本人のことを強く記憶している。今後、日本とインドの平和な交流が続くことを祈る。

（さかい かなこ / アジア経済研究所 図書館、
むらやま まゆみ / アジア経済研究所 研究支援部）



写真②